

「春の山小屋にて(3)」シラカバの花

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

シラカバの花は、ブナ科の樹木の花(クリやクヌギ)に形が似ている。拡大してみると、一つの花穂にたくさんの花が密集していることがわかる。



この雄花から今の時期、大量の花粉が飛散するという。特に平地でもシラカバが多い北欧諸国や北海道では、シラカバ花粉による「シラカバ花粉症」の人が非常に多いらしい。



この枝は、今の時期にしか見られない、シラカバのさまざまな「部品」が揃っていて面白い。



新しい葉の付け根には、冬芽の皮が残っている。冬芽は1枚ではなく、二重構造になっている。



まさに出てきたばかりの若い葉。冬芽の中で、こんなふう折りたたまれていたことがわかる。もうすぐ開く葉芽をとってきて、ピンセットで葉を展開させる活動をするのも面白いだろう。



小さな花穂も見つけた。これは「シラカバの花のつぼみ」ということになる。小さな枝先を詳しく観察するだけで、ずいぶん勉強になる。

